

平成 30 年度第 8 回地域福祉計画策定・普及推進委員会会議録

会議の名称	平成 30 年度第 8 回西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会
開催日時	平成 31 年 2 月 5 日（火） 午後 7 時から午後 8 時まで
開催場所	保谷庁舎 2 階第 1 会議室
出席者	【委員】伊藤委員（副委員長）、滝沢委員、篠宮委員、妻屋委員、中野委員、 中村委員、渡辺委員、小野委員 （欠席者）熊田委員（委員長）、櫻井委員 【事務局】健康福祉部長、生活福祉課長、生活福祉課 4 名
議題	1 開会 2 議題 （1）前回会議録の確認について （2）パブリックコメントについて （3）地域福祉計画素案について （4）地域福祉計画概要版について
会議資料の名称	資料 1 平成 30 年度第 7 回委員会会議録（案） 資料 2 第 4 期西東京市地域福祉計画 素案 資料 3 パブリックコメント ご意見と回答（案） 資料 4 第 4 期西東京市地域福祉計画 概要版
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）前回会議録の確認について</p> <p>○ 事務局 ―――資料 1 に沿って説明―――</p> <p>（意見なし）</p> <p>（2）パブリックコメントについて</p> <p>○ 事務局 ―――資料 3 に沿って説明―――</p> <p>（意見なし）</p> <p>（3）地域福祉計画素案について</p> <p>○ 事務局 ―――資料 2 に沿って説明―――</p>	

- 副委員長
ご質問、ご意見等はないか。

- 委員
58 ページ、基本目標 3 の「法定後見及び任意後見の件数」を「あんしん西東京での相談件数」に変えるという説明があったが、現状値や目標値も変わるということか。

- 事務局
「権利擁護センター「あんしん西東京」での相談件数」は、現状値が 945 件、目標値は、過去の相談件数の動向や、この権利擁護の事業は発展させていくべき取り組みであることを踏まえ、1,100 件と設定している。

- 副委員長
他にはいかがか。
私から 1 つ、確認させていただきたい。58 ページの上段の文章の最後に、「基本目標ごとに指標と目標値を設定しました」とあるが、「指標」とは項目のことを指すのか。

- 事務局
そのように考えていたが、ご意見を聞いて、確かに、指標と書くと、何か数字を示すというイメージを持たれるかもしれないと思った。

- 委員
私もそこについて質問しようと思っていた。私は、項目がイコール指標で、その横に目標値が書いてあるというイメージを持った。

- 事務局
各基本目標に対して、どのような観点から評価するかということで、例えば件数、加入世帯数、アンケートの結果の割合といった項目を設定して、その現状値と目標値を示すという構成にしている。

- 委員
「指標と目標値」というのは、つまり目標値のことか。

- 事務局
例えば「加入世帯」というのが指標で、その数値が目標値である。評価指標となる項目を設定し、それに対する目標値を書くという形である。

○ 副委員長

そうであれば、単に「指標」ではなく、「評価指標の項目」という表現にしたほうが分かりやすいと思う。

○ 委員

2ページの「計画策定の経緯」の図について、「3ページ(1)国の動き」、「5ページ(2)東京都の動き」、「6ページ(3)西東京市の動き」とあって、「14ページ」からは括弧書きの数字がなくなっているので、「14ページ」以降にも(4)、(5)と付けてはどうか。

3ページ以降の網掛けのところについて、今回修正した部分の網掛けが抜けている。

25ページの3つ目の段落にある「地域でのささえあい」という表記について、24ページでは「支え合う」と漢字表記になっているが、こちらは平仮名でいいのか。また、その次の行に、「……という様に」とあるが、文字統一の確認をしたほうがいいと思う。

27ページの文章の一番下の、「質的な面での充実に向けた支援を行っていきます」について、その4行上に「併せて」という言葉があるので、「……支援も行っていきます」としたほうがいいのではないか。

29ページの文の3行目の、「無い様に」の表記について、先ほどと同様、平仮名表記を検討していただきたい。

57ページの「(4)市民」の書きだしについて、その手前の部分を見ると、「(1)市」の冒頭は「市は」、「(2)社会福祉協議会」の冒頭は「社会福祉協議会は」、「(3)事業者・関係機関」の冒頭は「……事業者や……関係機関は」となっているが、「(4)市民」だけ主語がないので、ここにも「市民は」という主語を入れたほうがいいと思う。

58ページの表の一番上の、「地域におけるボランティア体験活動参加者数」について、現状の161名に対して目標値が160名に減っているが、これは間違いではないのか。

64ページの「あ行」の下から2つ目の「NPO」の説明に「Non Profit Organization」とあるが、正しくは「Nonprofit Organization」ではないのか。

65ページの下から2つ目の「市民協働推進センター事業(ゆめこらぼ)」について、施設の説明なので「事業」は要らないのではないか。

67ページの一番上の、「相談支援センター・えぼっく」の文章の中に、文字が重なっている部分がたくさんあるので、整理していただきたい。また、下から2つ目の「DV」の説明に、「英語の domestic violence をカタカナで表記したもので、略してDVと呼ばれることもある」とあるが、「カタカナで表記したもので、」は要らないと思う。それから、一番下の「出前講座」の1行目に、「希望するものについて」とあり、「に」が抜けている。

68ページの上から2つ目の、「2025年問題」の最後の行に「地域包括ケア 包括ケアシステムの構築が」と重複があるので、修正をお願いします。また、「はなバス」の説明について、これは西東京市の固有の福祉バスなので、西東京市のものだということが分かるように、

1行目に「市民」を加えて「市民ニーズに対応する」としてはどうか。

79 ページの「各種調査結果概要」の表について、表の一番上に「1,270 件」とあるが、これは何の数字なのかを示されていない。また、その下の欄の数字について、例えば「①市民」の「43.4」「52.8」等はパーセンテージだろうと想像はできるが、「%」という単位を入れたほうが良いと思う。

93 ページについて、表題の文字のサイズはこれでいいのか。79 ページ以降のところは、「(1) アンケート調査結果」の中に小項目として「①市民」、「②民生委員・児童委員」という構成になっている。しかし、93 ページからのところは、小項目の「(1) アンケート結果抜粋概要」のほうが太文字になっており、序数も同じ括弧数字が使われていて分かりにくいので、小項目は片括弧にするとか、文字サイズを調整するなどしたほうが良いと思う。

○ 副委員長

丁寧に見ていただき、お礼申し上げます。今のご意見について、事務局、いかがか。

○ 事務局

後段の資料編については、まだ精査が必要であることは認識しているので、今後精査して、委員長に内容を確認していただき、確定させていただく。

網掛けが抜けているとか、文字が重なっている部分については、市役所とコンサルとのデータのやり取りの中で起こっている問題であり、最終的な印刷の際には修正される。

2 ページの、括弧数字が途中までしか付いてないという点については、ご指摘を踏まえて修正をしたいと思う。

その他、文言等のご指摘についても、検討して修正させていただく。

○ 事務局

58 ページの「地域におけるボランティア体験活動参加者数」の目標値については、総合計画で掲げているものではないので、実際に取り組んでいる社協さんと相談しながら、5 年先の見通しを設定した。例えば学校教育の部分で言うと、総合学習の時間の中で実施されてきたが、その枠組みが変わってきており、学校教育における講座・体験活動はこの先増加が見込めないというのが実情である。その中で、現状の回数は維持していきたいということで、この数値を設定した。

○ 委員

私が質問したのは、その下の「地域におけるボランティア体験活動参加者数」の目標が現状値より少ないという点についてである。

○ 事務局

そこも含め、この2つの部分に関しては、現状維持が現実的な目標値であろうと考えている。現状161名が目標では160名になっている点については、端数を切って「160名」とした。

○ 委員

学校教育の中の講座については、生徒の体験学習者が増加する見込みもないので横ばいというのは分かったが、地域におけるボランティアに関しては、学校教育のところだけに限らず、ボランティアセンターのボランティア数といった項目でもいいのではないかと。横ばいを維持することも大切だが、目標値として挙げるのだから、横ばいの項目ではなく、もう少し希望を持てるような項目を載せるという考えもあるのではないかと。

○ 委員

私どもと事務局の相談の中で、この数字を設定した。現状維持というと聞こえは悪いかもかもしれないが、2023年の時点での子どもの数や、市内の人口の減少が始まる中で、努力をして数字を維持するというのがこの数字のニュアンスである。

○ 副委員長

委員がおっしゃっているのは、下のほうは地域におけるボランティア体験なので、子どもさん以外の数も見込まれるのではないかとということだと思う。

○ 委員

ボランティア体験というのは、子どもたちが夏休みにする体験のことを言っているのであれば、上と下は同じようなものになってしまうので、もっと一般の人たちが行っているボランティア数とか登録数など入れたほうがいいのではないかと考えた。対象者が子どもだけだと、指標としては足りないと思う。

○ 委員

私は、「地域におけるボランティア体験活動参加者数」は、35ページの地域で取り組むボランティアのことを言っていると思った。だから、地域の人に、「我が事・丸ごと」でみんなが地域を守ろう、参加しようと言っている時に、数字がとどまっていることが不思議だった。基本目標の「一人ひとりが活躍する地域づくり」の、「地域におけるボランティアの実施」の中の「地域におけるボランティア体験活動参加者数」というと、大人も交えた地域に関わる人たちのボランティアの体験というイメージを持つが、ここでは学校教育における体験を指しているのか。

○ 委員

私も、これは夏ボラの数字なのかと、質問しようと思っていた。

○ 委員

夏のボランティアの体験学習は、対象は小学生以上となっており、大人が参加してはいけないというわけではない。ただ、メインのターゲットは学生であることから、この指標には児童生徒数というところを加味している。委員がおっしゃる、35 ページとの兼ね合いから考えると、異なる指標項目にしたほうが適切なのかもしれないと思った。

○ 副委員長

夏ボラだけだと、年1回しかなく、非常に限定的なものになる。これは年間を通して、ボランティア体験だけでなく地域のボランティア参加者も増やしていこうという基本目標だと思うので、もう少しその辺まで広げた数字にしたほうがいいように私も思った。

○ 委員

西東京市のボランティアを統括していくという意味でも、ボランティアセンターが有効に働くことがとても大切だと思うので、そこをベースに考えるといいのではないかと。

○ 委員

委員が言われた 35 ページには、ほっとネットに登録している推進員、ふれまちに関わっている市民、ささえあい訪問協力員に登録している方等について書かれている。これらも数字として追い掛けるべき項目だと思う。そういう数字のほうが市民に分かりやすいのであれば、協議していただいて、その中の1つを指標として 58 ページに取り上げてもおかしくはないと思う。

○ 委員

確かに、いろいろなボランティアが市内にはたくさんあるが、広い数値を取るとなると、ささえあいやほっとネットのような限定的なものではなく、子どもから大人まで対象者が広いボランティアセンターの数字が一番いいのではないかと。

○ 委員

ほっとネット等はベテラン層の活動者が多く、限られたイメージがある。基本目標1は、ボランティア活動への参加意向があっても、実際の活動に結びついていない人が多くいるという課題がある中、第一歩を踏み出してもらおうということも大きな方向性としてあるので、ボランティアセンターの新規登録者数等がいいと思う。ボランティアセンターの新規登録者数は、社協のアクションプランでも毎年目標値を掲げられているので、そういう意

味でも指標としていいと思う。

○ 事務局

58 ページの評価指標については、その上の文にあるとおり、基本的に総合計画と連動した数値を主としているが、本日、「ボランティアセンターの登録者数」というご意見を頂いたので、他の項目とのバランスや、社協さんのアクションプランの数値を使えるかどうかなど確認したうえで、委員長と調整させていただきたいと思う。

○ 副委員長

「一人ひとりが活躍する地域づくり」を目標として掲げている以上、そこがどれだけ効果があるのかを見ていく必要がある。その中で、今挙げられている2つでは現実を表せないと思われるので、総合計画とは外れるかもしれないが、やはり地域登録事業とか、35 ページの下段の表の中にあるような、例えば「介護支援ボランティア制度の充実」など、数値として拾える項目にする方向で検討していただきたいと思う。

「学校教育におけるボランティア講座の実施回数」が現状値も目標値も20回で同じになっているのは、年間20回というのがいっぱいばいばいで、これ以上増やせないということか。

○ 委員

「学校教育におけるボランティア講座の実施回数」については、実は、29年度の時点では微減となっている。その原因の1つはカリキュラムの改訂で、今までこの取り組みをしていた時間に、今後は他の授業が割り振られているのである。加えて、児童生徒数の減少もあり、現状維持の数字に至った。

○ 委員

学校教育におけるボランティア講座というのは、点字、車椅子、盲導犬等の講座のことだと思う。確か、小学校4年生の国語にそういう教材が入っていて、その延長線上で総合学習の時間にそういう講座を実施するというので、ボランティア・市民活動センターに依頼が来て、あちこちの学校に伺っている。ただ、職員は3人しかおらず、依頼が9～10月に集中するため、この項目のままで増やすことは、ボランティア・市民活動センターとしても不可能というのが実情である。

○ 委員

そういう他の要因があってもならないものを評価指標の項目にするのは、少し違うように感じる。

○ 委員

私も同感である。市民はそういう実情を分かっていないので、目標値が現状維持だと疑問を持つと思う。それよりは、せつかく目標値として出すのであれば、例えば、今は介護とか支援が必要な人が増えていたりするので、そういう、今よりも高い目標値を掲げられる項目に変えたほうがいいと思う。

○ 副委員長

あるいは、例えば、※印で、現状で顕著な増加は期待できないけれども、少しずつ増やしていく方向で検討していくという説明を加えて、25回とか、少し前向きな数字を出せないのか。もし、現状維持の数字しか出せないのであれば、※印で現状維持が精いっぱいという説明は入れたほうがいいと思う。

ただ、できればこれ以外の項目にしてほしいというのが委員会の意見だが、いかがか。

○ 委員

例えば、全体の新規登録者数のうち、子どもたちの新規登録者数の割合とか、65歳以上の割合というふうに、世代をターゲットにした形の評価指標でもいいと思う。今挙げられている、夏ボラと学校の授業の中のボランティア講座の実施回数もそういう趣旨だとすると、全体の数字の中でボランティア活動につながった割合等を見られる形にしたほうがいいと思った。

○ 委員

上のポツは授業との兼ね合いがあるのでどうにもならないと思うが、下のポツは子どもたちが手を挙げて、例えば、夏休みにボランティアをしたいと言って参加する数字だと思う。そうであれば、母数の生徒が減ってきて、心が豊かでボランティアをしようという子どもが増えてくれば、数は増えるのではないのか。

○ 委員

ここは、実施回数及び体験者数として、20回の後ろに161名と書いてはどうなのか。

○ 委員

その2つの数字の元は別のものなので、その書き方はできないと思う。

○ 委員

それを1つにして、災害ボランティアも入れて2行書きにしたら見やすいと思う。ところで、社協のボランティアというのは、ほとんどが災害ボランティアの人ではないのか。

○ 委員

ボランティアセンターの登録者は、災害ボランティアに限定はしていない。自分にできることということで、さまざまなボランティア活動を登録していただいております、内容は多岐にわたっている。

○ 委員

ここは子どもにこだわりたいのか。そうだとすると、子どもができるボランティアはこれ以外にないのか。

○ 委員

基本目標が「一人ひとりが活躍する地域づくり」で、その中の「地域におけるボランティアの実施」の中の2項目が両方とも子どもたちがメインの数字となると、地域の人たちの活躍はどこでカウントするのか。地域の人々の活躍を増やすということも地域福祉計画の大きな目標であるはずなのに、そのカウントができる項目がないというのは少し寂しい感じがする。

○ 副委員長

この2項目は総合計画から出てきているものなのか。

○ 事務局

ここについては、先ほどからご意見を頂いているので、地域のボランティアの参加ということで指標を拾えるものを、社協さんと相談して選定するようにしたいと思う。

○ 副委員長

時間的に厳しいと思うが、期待できる努力目標を掲げる方向で検討をお願いしたい。

あと、同じ表の一番下の、「生活困窮者自立支援の取組により就労を開始した人数」も、現状46人、目標値48人と、2人しか増えていない。これはどういう理由なのか。

○ 事務局

ここに関しては、総合計画からそのまま引用している。

○ 事務局

支援に結びつく人は増えていっているが、それがすぐに就労につながるわけではないというのが実情であるため、このような目標値になっている。

○ 委員

現状で46人いるのに、これから重点的に力を入れて、6年後、2人しか増えないのか。

○ 事務局

これは年度新規の数字である。

○ 副委員長

そうだとすると、例えば、就労に結びついて、辞めてしまう方がいてもいいと思うので、結び付ける努力をするという意味で、もう少し高く設定できないのか。総合計画との兼ね合いで、これはどうにもならないのか。

○ 委員

将来的にはそういう人が西東京市では減っていくという解釈をしないと、この数字が支援に結びつくということはない。普段働いてないのだから、なかなか結びつかないと思う。将来的にそういう市民が少なくなっていけば、逆に、目標値は下がるのではないか。

○ 副委員長

それはそうだが、母数となる、ひきこもりとか就労につながらない人等がこれからまだ増えていくと考えられている中で、48人というのは少なく感じる。

○ 委員

相談件数にしてはどうか。今、相談は増えているけれど結果が出ないと言われたが、結果はどうであれ相談につながった人を増やしていくという考え方はどうか。

○ 事務局

事務局としては、総合計画との整合という意味でこの指標を使いたいと考えているが、ご意見を踏まえて、総合計画に縛られない新たな指標を出すことができるかどうか、持ち帰って、委員長と相談して決めさせていただきたいと思う。

○ 委員

25ページの「重点的な取組」のところで、2に「困ったときに誰もが気軽に相談できる相談体制づくり」、3に「必要な情報を必要な人に分かりやすく提供していく情報発信の工夫」が掲げられているので、結果の数字よりは、困った人が相談に行っているか・行っていないかというところのほうがより重要だと思う。したがって、総合計画からは外れても、地域福祉の視点から、困った人が相談に行っているか、その体制ができているかということに焦点を当てた数値を出したほうが有効だと思う。

○ 副委員長

同じ表の「女性相談件数」も、本当は悩んでいる人数が減って相談件数も減ったほうがいいのだが、相談件数が増えることを目標とされている。それと同じ考え方で、58 ページの一番下の項目も、ぜひ相談件数のほうでカウントすることを検討していただきたい。なお、最終的な判断は委員長と事務局に一任したいと思う。

他にはよろしいか。

○ 委員

「自治会・町内会等の加入世帯数」について、加入世帯数だと市民にはよく分からないと思う。私も、何パーセントくらい加入しているのか、いつも疑問に思っていた。

○ 委員

今は20～25%である。

○ 委員

そのパーセンテージをどのくらいまで上げる予定なのか。

○ 委員

今、半分ずつやっているが、現状は、自治会からどんどん外れている。だから、増加傾向はないと思う。増えるのはマンションの管理組合のみである。

○ 委員

全体で10万世帯なので、10万分の19,177が現状値、20,816が目標値となる。これを割合で表すと差はわずかになる。

○ 委員

世帯数で出していたほうが増加しているように感じられるということか。

○ 副委員長

ここにはマンションの管理組合は入っているのか。

○ 委員

入っているところもある。

○ 事務局

ここに書いている自治会・町内会の加入世帯数は、市で捉えている部分であり、全体に

に対する自治会の組織率ということではない。単純に市が把握しているものを積み上げたものなので、世帯数という形で挙げている。

マンション等については、自治会・町内会を組織されていて、そのことを市に伝えていただいているところは、このカウントに含まれている。

○ 副委員長

そういうことであれば、ここは「登録自治会・町内会等の加入世帯数」などとしたほうが、より正確と思う。

○ 事務局

この項目は動かさない。

○ 委員

65 ページの、「市民協働推進センター事業（ゆめこらぼ）」の説明の最後のほうに、「様々な協働の形を生み出していくための施設」とあるが、「施設」ではなく「機関」としたほうがいいと思う。

○ 副委員長

68 ページの「2025 年問題」の説明の中で、ところどころに半角くらいのスペースが空いている部分があるので、整理していただきたい。

その他、いかがか。なければ、議題（3）はここまでとしたい。

意見がまとまらなかった部分については、委員長に一任ということにさせていただく。また、この後お気付きの点があれば、2月中旬までに事務局まで出していただければと思う。

（4）地域福祉計画概要版について

○ 事務局 —————資料4に沿って説明—————

○ 副委員長

概要版については、内容の検討ではなく、文字や絵の修正程度のみ可能ということである。ご質問、ご意見等はないか。

○ 委員

4 ページの「計画の体系」では、基本方針を3つに色分けして、基本目標の1・2が緑、3・4が赤、5・6が青になっているが、5ページ以降では1が緑、2が青、3が赤というふうになっているので、4ページの色分けと合わせたほうがいいのではないか。

○ 事務局

5ページ以降は、基本目標の色分けとは関係なく、基本目標ごとに色を変えている。

○ 委員

裏表紙に「発行年月日」とあるが、「日」は必要ないのではないか。必要なのであれば、その右の日付には日にちまで入れるべきだと思う。

○ 副委員長

他にはいかがか。なければ、議題（4）は以上で終了する。本日予定していた議題は以上である。

その他

○ 事務局

今後の予定について説明させていただく。この計画書は、2月中旬までに最後の校正を行い、印刷・製本をして、3月下旬に発行する予定である。完成の折には、委員の皆様にも送らせていただく。パブリックコメントの回答は、2月から3月の間に公表する予定である。来年度からは、今回策定した計画に基づいた施策を実施することになる。本委員会の役割も普及推進に軸足を置くことになる。計画の進行状況のチェックなどで引き続きご意見を頂く場があると思うので、よろしく願いしたい。併せて、本委員会には、社会福祉法人を活用して行う地域公益事業に対して、地域の福祉ニーズの助言を行う地域協議会としての役割も担っていただいている。その会議を来年度の5月に開催する予定である。詳細はあらためて書面で案内させていただく。

最後に、計画策定までの長い道のりにお付き合いいただき、熱心なご議論、ご意見を頂いたことに、あらためて感謝申し上げます。

閉会